



鐘楼全景

鐘楼の寄贈を感謝す

館長 外間 正幸

このたび、博物館の前庭に近代的な鐘楼が建設され、赤瓦屋根に朱塗りの柱の色も鮮やかに、博物館の景観を引き立て、ひととき観客の目を奪っております。そして、この立派な鐘楼に、このたび国の重要文化財に指定された円覚寺の大鐘が吊るされ、永く大切に保存出来ることはまことに慶びにたえません。

この鐘楼は、今年4月地域住民の盛り上がりによって「円覚寺の鐘をならす会」が結成され、県内外に募金を呼びかけ、多くの人々の賛同と支援により、去る9月3日に寄付金によって建設され、当館に寄贈されたものであります。

鐘楼の建設の目的は、鐘声を甦らせることによ

って現代の青少年の情操教育に役立て、また、祖先の文化遺産を後世に伝え、同時に新しい文化の創造の起爆にしたいということでもあります。そしてさらに博物館のためにも役立てたいとのことです。そのために発起人の与儀清秀氏、浜比嘉宗正氏、仲吉朝佑氏、佐久本政敦氏らほか役員の方々が募金に尽力されました。

博物館では、これら皆様方の御厚意に報いるべく、文化庁に梵鐘の調査を依頼し、会の趣旨にかなうよう努力したいと存じます。委員長の具志堅宗精氏をはじめ御協力下さった一般の多くの方々に深く感謝し、鐘楼の寄贈に対して心から厚く御礼を申し上げる次第であります。